

子供たちに未来の創り手となる  
ために必要な資質・能力を育む

# 指導と評価の 一体化を 目指して

〈実践事例〉

令和3年3月  
東京都教育委員会

# 目 次

指導と評価の一体化を目指して〈実践事例〉について	2
〈小学校 国語〉	4
〔1〕【事例①】 第6学年 B 書くこと 「地域の美しい水を守るため、調べたことや考えたことを報告しよう」 《評価の観点》 知識・技能 主体的に学習に取り組む態度	
〔2〕【事例②】 第3学年 C 読むこと 「心にのこった登場人物を『しょうかいカード』でしょうかいしよう」 《評価の観点》 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	
〈小学校 算数〉	8
〔1〕【事例①】 第3学年 A 数と計算（4）除法 「あまりのあるわり算」 《評価の観点》 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	
〔2〕【事例②】 第5学年 B 図形（3）平面図形の面積 「四角形と三角形の面積」 《評価の観点》 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	
〈中学校 国語〉	12
〔1〕【事例①】 第2学年 B 書くこと 「新聞の投書を書こう ～根拠の適切さを考え、説得力のある文章を書く～」 《評価の観点》 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	
〔2〕【事例②】 第3学年 C 読むこと 「『おくのほそ道』を読んで、人間、社会、自然について考えよう」 《評価の観点》 知識・技能 主体的に学習に取り組む態度	
〈中学校 数学〉	16
〔1〕【事例①】 第2学年 C 関数（1）一次関数 「一次関数」 《評価の観点》 知識・技能 主体的に学習に取り組む態度	
〔2〕【事例②】 第2学年 B 図形（1）基本的な平面図形の性質 「基本的な平面図形の性質」 《評価の観点》 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	
「新しい指導と評価の在り方」検討委員会 委員名簿	20

本資料は、東京都教育委員会が令和2年9月に発行した「子供たちに未来の創り手と作成しました。小学校国語・算数、中学校国語・数学の授業における具体的な指導と内容のまとめりごとの評価規準を作成する際の基本的な手順は、前掲の「子供たちに究所が令和2年3月に発行した『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考

「子供たちに未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む指導と評価の一体化を目指して」  
(東京都教育委員会 令和2年9月)

## 〈実践事例〉の見方

各事例で取り上げて説明する評価の観点を示しています。この事例では、特に「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の二つの観点について取り上げています。

学習指導要領の内容を踏まえて**単元の目標**を設定しています。国語では、該当する指導事項を示し、学習指導要領の指導事項との関連を明確にしています。

**単元の評価規準**の設定に当たっては、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」(国立教育政策研究所)を参考にして示しています。

**単元の流れ**では、各時間の主たる学習活動に沿って、**指導と評価の一体化に向けた考え方**を示しています。

国語では、「おおむね満足できる」**状況(B)**の例を、「Bと判断する状況」の例として示しています。その際、「小・中学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編」の関連する記述を参考にし、当該単元の具体的な言語活動を踏まえて想定しています。

### ● 左ページ

**タイトル(単元名)**ではどのような学習活動を行うのかを具体的に示しています。また、「**単元の目標**」、「**単元の評価規準**」、「**単元の流れ**」等を示しています。

小学校 国語② **心にのこった登場人物を「しょうかいカード」でしょうかいしよう**  
第3学年 C読むこと

思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度

#### 1 単元の目標

- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。(知識及び技能)(1)オ
- 登場人物の性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思考力、判断力、表現力等)C(1)エ
- 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

#### 2 単元における言語活動

同じ作者による複数の作品を読み、心に残った登場人物を選んで「しょうかいカード」にまとめ、紹介し合う。(関連：[思考力、判断力、表現力等]C(2)イ)

#### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使っている。(1)オ	① 「読むこと」において、登場人物の性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)	① 進んで、登場人物の性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見直しをもって感じたことや考えたことを文章にまとめようとしている。

#### 4 単元の流れ(11時間扱い)

※本事例では、「知識・技能」の評価については省略している。

次	時	主たる学習活動	指導と評価の一体化に向けた考え方
一	1	○ 教師が作成した登場人物の紹介カードを見て、物語を読んで心に残った登場人物と自分が感じたことや考えたことを、登場人物の性格に着目して紹介し合うという学習の見直しをもつ。	◆ <b>学習の見直しをもたせる。</b> 教師が心に残った登場人物を性格に着目して紹介することで、紹介するという言語活動に対する見直しを児童にもたせる。また、単元に設定した言語活動を教師自身が行うことにより、指導や評価を行う際の留意点を明確にする。 児童がいつでも斎藤隆介の作品を読むことができるように、本を借り、教室に常備するなど学習環境を工夫する。 ◆ <b>叙述に基づき、豆太の性格を考えさせる。</b> 豆太のことがよく表れている叙述に着目させ、その叙述から分かる豆太の性格を短い言葉で付箋紙に書き、書いた付箋紙を着目した叙述の近くに貼らせる。 [児童が付箋紙を貼った教科書の一部]
	2	○ 既習の物語を想起し、登場人物の性格を表す言葉を集める。	
	3	○ 「モチモチの木」を読み、心に残った登場人物である豆太がどのような人物か考える。 ○ 豆太のことがよく表れている豆太の行動や会話などに関わる言葉や文を見つけて線を引く、その言葉や文を基に豆太の性格を想像して、第2時で学習したことを基に短い言葉で付箋紙に書く。 ○ 付箋紙を基に、豆太の性格について話し合う。必要に応じて付箋紙に書き加える。 ○ 毎時間、学習活動を振り返る。	
二	7	○ 物語全体を読み、自分が貼った付箋紙を比較したり分類したりすることで、登場人物の性格が分かる叙述は物語全体に広がっていることに気付く。 ○ 複数の叙述を結び付けて豆太の性格について考える。 ○ 豆太の性格について友達と交流する。その際、交流したことをメモし、自分の考えがどのように変わったのかを記録に残す。 ○ 豆太について、「しょうかいカード」を書く。 ○ 毎時間、学習活動を振り返る。	◆ <b>振り返りの記述から児童の学習状況を捉え、必要に応じて学習改善につながる指導・助言を行う。</b> ◆ <b>一つの叙述だけでなく、複数の叙述を根拠にすることで、より具体的に豆太の性格を考えさせる。</b> 自分の考えをはっきりとさせるために、着目した叙述とその叙述から分かる性格について友達と交流する。交流したことをメモすることで、自分の考えがどのように変わったのかを記録に残し、紹介カードを書く際に活用できるようにする。 [思考・判断・表現]①で評価(「しょうかいカード」) ◆ <b>「学習のめあて」に沿って振り返らせる。</b> 学習を振り返る際は、「学習のめあて」に立ち返らせ、その視点に沿った書き方を指導する。 [主体的に学習に取り組む態度]①で評価(ノートにおける振り返りの記述)
	8	○ 斎藤隆介の他の作品から自分が紹介したい作品を選び、「しょうかいカード」を書く。	
	9	○ 「しょうかいカード」を読み合い、感想を伝え合う。 ○ 単元の学習活動を振り返る。	
三	10・11		

※本事例では、「知識・技能」の「Bと判断する状況」の例については省略している。

#### 5 「Bと判断する状況」の例

思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分が選んだ登場人物の性格について、複数の叙述を結び付けて具体的に想像し、「しょうかいカード」を書いている姿	進んで、自分が選んだ登場人物の性格について複数の叙述を結び付けて具体的に想像し、学習の見直しをもって感じたことや考えたことを「しょうかいカード」にまとめようとしている姿



# を目指して〈実践事例〉について

「なるために必要な資質・能力を育む指導と評価の一体化を目指して」（左図参照）の〈実践事例〉として評価の一体化に向けた考え方や評価の実践について、授業の実践事例を踏まえ、解説しています。未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む指導と評価の一体化を目指して」や、「国立教育政策研究資料」を参照してください。

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」  
(国立教育政策研究所 令和2年3月)



## ● 右ページ

各事例における評価の実践について、児童・生徒が記述したノートやワークシート等を例示しながら、具体的に説明しています。

各事例で取り上げた評価の観点について、どのように学習を評価したのか、観点別学習状況の評価をどのように行ったのかを示しています。

### 6 評価の実践

#### (1) 「思考・判断・表現」の評価（第9時）

○ 第9時の「しょうかいカード」の内容から、「Bと判断する状況」の例に該当するかどうかを見取って評価する。

「おおむね満足できる」状況(B)の例  
「児童3の「しょうかいカード」の一部

夜中には、じいさまに ついてつてもらわな いと、一人じゃしよ うへんもできないの だ。」(部1)

「おおくびょう」  
豆太は小犬みたいに 体を丸めて、表戸を 体でふっとはして走 りだした。」(部2)

「ゆづり」  
人間、やさしさあ れば、やらなきゃ ならぬことは、 きつとやるもんだ。」 (部3)

「おおくびょう」  
豆太は、昼間は「やい、 木い、モチモチの木い、 笑い落とせ〜」と言っ てはいっていますが、夜 になるとモチモチの木が こわくなるおおくびょうな 男の子です。 しも月二十日のぼん じさまがいられたになっ てしまいました。夜中に 一人でせっちんにもいけ ない豆太ですが、半進も あるふもとの村まで、医 者様をきぶために一人で 走って行ったのです。 じさまのためにがんば った豆太のことが、こ ろも心にのこりました。

「豆太について感じた ことや考えたこと」  
おおくびょうだけど、 ゆづりややさしさを もっている。

児童3は、「しょうかいカード」における、部1の叙述から、豆太が聴病であることを、部2の叙述から豆太が勇気をもっていることを、部3の叙述から豆太が優しくなっていることをそれぞれ想像していることと捉えた。また、「おおくびょう」という性格については、児童3の教科書を確認したところ、物語全体に描かれた行動や会話に関する叙述に着目して付箋紙を貼り、複数の叙述を結び付けて豆太の性格について想像していることを確認した。これらのことから、豆太の性格について、複数の叙述を結び付けて具体的に想像していると捉え、「おおむね満足できる」状況(B)と判断した。

複数の叙述を結び付けて豆太の性格を想像していない児童は、「努力を要する」状況(C)と判断した。このように判断した児童には、線を引いた叙述と自分で貼った付箋紙を確認しながら物語全体をもう一度読ませることで、登場人物の性格が分かる叙述は物語全体に広がっていることや複数の叙述を結び付けると登場人物の性格をより具体的に想像することができることを確認させ、次の学習に生かすことができるように指導する。

#### (2) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価（第9時）

○ 第9時の振り返りの記述や学習に取り組んでいる様子から、それぞれ「Bと判断する状況」の例に該当するかどうかを見取って評価する。

「おおむね満足できる」状況(B)の例  
「児童4のノートの一部

「おおくびょう」  
教科書には、豆太のことが分かるふせん紙を整理してみた。豆太のせいはいくつかではなく、いろいろなことがあることが分りました。いくつかの場面をくぐらべて登場人物のせいはいかを考えてみるで自分の考えははっきりするなと思いました。

「十分満足できる」状況(A)の例  
「児童5のノートの一部

「おおくびょう」  
今日は豆太のせいはいくつかについて考えしょうかいカードにまとめました。 わたしは、豆太のせいはいくつかあつたけれど、豆太にやさしさがあったから、友だちをまひに行くとかができたから、医者様をまひに行くとかができたから、モチモチの木に灯がついたところを見られたんじゃないかな。」と書いていました。教科書をも一度読んでみるよ、さい後の場面で、じさまが、「おおくびょうのせいは、」と書いていたので、豆太のせいはいくつか、やさしいことについて足りました。

児童4は、ノートにおける部3から、見通しをもって学習していると捉えた。また、部1から、豆太の性格について複数の叙述を結び付けて検討していると捉えた。さらに、部2から友達との交流を通して、豆太の性格が表れている他の叙述に気付き、自分の考えをより深めていると捉えた。これらのことから、「十分満足できる」状況(A)と判断した。

児童5は、ノートにおける部1から、見通しをもって学習していると捉えた。また、部2から、豆太の性格について複数の叙述を結び付けて検討していると捉えた。さらに、部3から友達との交流を通して、豆太の性格が表れている他の叙述に気付き、自分の考えをより深めていると捉えた。これらのことから、「十分満足できる」状況(A)と判断した。

## 1 単元の目標

- (1) 思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使うことができる。 [知識及び技能] (1) オ  
 (2) 事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1) ウ  
 (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、書き表し方の工夫を捉えようと進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

## 2 単元における言語活動

地域の水について調査した結果とそこから考えたことを、調査を報告する文章（以下、「調査報告文」という。）に書き、地域の人に報告する。（関連：[思考力、判断力、表現力等] B(2) ア）

※ 本単元においては、児童の実態や学習状況等を踏まえ、単元の目標を実現するために適した言語活動として、第3学年及び第4学年の言語活動例を参考に設定している。

## 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っている。(1) オ)	① 「書くこと」において、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1) ウ)	① 粘り強く、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習課題に沿って報告する文章を書こうとしている。

## 4 単元の流れ（9時間扱い）

※本事例では、「思考・判断・表現」の評価については省略している。

次	時	主たる学習活動	指導と評価の一体化に向けた考え方
一	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「地域の美しい水を守るため、調べた結果と自分の考えについて、書き表し方を工夫して地域の人に報告しよう」という学習課題を設定し、学習計画を立て、自分のめあてをもつ。</li> <li>○ 調査報告文の書き方の特徴について考える。</li> </ul>	<p>◆ <b>本単元で身に付けさせるべき資質・能力を理解させる。</b></p> <p>児童が参考にできるよう、これまでの学習を基に、「調査報告文を書くときのポイント」にまとめ、児童に配布する。</p> <p>教師が作成した調査報告文を示して、調査報告文で使う特徴的な語句について考えさせ、思考に関わる語句を用いて文章を書くことができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>● 調査の結果</p> <p>・「いこうかが分かった」という結果になった</p> <p>・「はより」だった</p> <p>・「はー比べてきたら」</p> <p>・「なつた原因を調べてみると」</p> <p>など</p> <p>● 結果から考えたこと</p> <p>・「考える」</p> <p>・「思う」</p> <p>・「だろ」</p> <p>・「ではないだろうか」</p> <p>など</p> </div> <p>【「調査報告文を書くときのポイント」の一部】</p> <p>※ 本単元で身に付けるべき資質・能力を具体的に示すことで、「Bと判断する状況」の例を児童と共有することができるようにする。</p>
二	2 6 7 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分のテーマを決め、調査報告文の構成を考えて構成メモにまとめる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>【構成メモ】</p> <p>「美しい水を」</p> <p>「を守るため」</p> <p>1 調査の目的</p> <p>2 調査の方法</p> <p>3 調査の結果</p> <p>4 調査の結果から考えたこと</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 構成メモを基に、調査報告文の下書きを書く。</li> <li>○ 友達と下書きを読み合い、文章を書き直す。</li> <li>○ 「自分のめあて」について学習活動を振り返る。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達からの助言を基に、下書きを修正し、それを清書して調査報告文を仕上げる。</li> </ul>	<p>◆ <b>学習課題に沿って「自分のめあて」の設定と振り返りをさせる。</b></p> <p>学ぶ目的を考えて学習課題を設定させ、学習課題に沿って「自分のめあて」をもたせる。</p> <p>学習課題に沿ってめあてを設定していない児童には、個別に指導し、適切な「自分のめあて」を考えるよう助言する。</p> <p>学習を振り返る際は、「自分のめあて」を確認させ、そのめあてについて学習を振り返ることができるよう指導する。</p>
三	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 清書した調査報告文を読み合い、書き表し方を工夫することができるかなどを伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける。</li> <li>○ 単元の学習を振り返る。</li> </ul>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】①で評価（「ふり返りカード」）</p>

※ 児童や学校、地域の実態等を考慮し、各教科等及び各学年間の関連を図り、系統的、発展的な指導ができるように工夫することが重要である。例えば、本単元の学習においては、他教科等で行った調査の結果等を活用すること、児童が書いた調査報告文を地域の人に読んでもらうことなどが考えられる。

## 5 「Bと判断する状況」の例

※本事例では、「思考・判断・表現」の「Bと判断する状況」の例については省略している。

知識・技能	主体的に学習に取り組む態度
地域の水について調査した結果と自分の考えを相手に分かりやすく伝えるために、思考に関わる語句を使って、文や文章を書いている姿	地域の水について調査した結果と自分の考えを相手に分かりやすく伝えるために、学習課題に沿って粘り強く書き表し方を工夫しながら、調査報告文を書こうとしている姿

## 6 評価の実際

### (1) 「知識・技能」の評価（第6時）

○ 第6時の調査報告文の下書きから、「Bと判断する状況」の例に該当するかどうかを見取って評価する。



「おおむね満足できる」状況(B)の例  
「児童1の調査報告文の下書きの一部」

美しいわき水を守るために

#### 1 調査の目的

私たちが住むF市には、いろいろな所にわき水があります。私たちの学校の近くにもわき水があり、私は六年間、毎日この美しいわき水をながめながら登校しています。そのわき水の美しさが、どうして保たれているのか疑問に思い、調べてみることにしました。

#### 2 調査の方法

大きく分けて、二つの方法で調べました。第一は、実際にわき水がある場所に行つて調べる方法です。第二は、本やインターネットで調べる方法です。

#### 3 調査の結果

はじめに、学校の近くのわき水がどれくらいきれいなのかを調べることにしました。まず、わき水と近くに流れている川の水をそれぞれ採取しました。次に、水質測定器でそれぞれの水質を調べてみると、学校の近くのわき水の水質は川の水質に比べて、きれいであるということが分かりました。(資料1)からも、

#### 4 調査の結果から考えたこと

調査結果から、F市のわき水は、地域の人たちをはじめ、多くの人たちの努力によって美しく保たれているのではないかと考えました。私もこれからは、わき水を美しく保つために、自分にどのようなことができるかを考えていきたいと思えます。

〈参考〉石山正一「身のまわりの水を調べよう」(〇〇出版)二〇一七年  
△△市教育委員会「湧き水探検隊報告書」(二〇一九年)

児童1は、下書きにおける——部①から、複数の情報を比べる語句を用いて事実を書いていると判断した。また、——部②及び③から、「考える」、「思う」のように思考そのものに関する語句を用いて文末表現に注意して書き、事実と感想、意見とを明確に区別して書いていると判断した。これらのことから、思考に関する語句を文章の中で適切に使っていると捉え、「おおむね満足できる」状況(B)と判断した。

思考に関する語句を適切に用いて書くことができていない児童は、「努力を要する」状況(C)と判断した。このように判断した児童には、教師が「先生が書いた調査報告文で使っている言葉を参考にして書きましょう。」「調査報告文を書くときのポイント」の中から言葉を選んで使ってみましょう。」などと助言し、具体的な語句を取り上げ、児童がその語句を用いて書くことができるよう指導する。このような指導を通して、思考に関する語句を用いて書くと、事実を相手に分かりやすく伝えることができるなど、思考に関する語句を用いて書く必要性を児童が実感できるようにする。

### (2) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価（第4時・第5時・第6時）

○ 第4時、第5時及び第6時の振り返りの記述や学習に取り組んでいる様子から、それぞれ「Bと判断する状況」の例に該当するかどうかを見取って評価する。



「おおむね満足できる」状況(B)の例  
「児童2の「ふり返りカード」の一部」

第6時	第5時	第4時	自分のめあて	ふり返り
<p>○友達と調査報告文を読み合い、アドバイスをし合って、より分かりやすい文章にしよつ。</p>	<p>※付け足し 事実と自分の考えとを分けて書き、読み手に自分の考えが伝わるようにする。</p>	<p>○調査報告文を書くときのポイント」を参考にし、調査報告文の下書きを書く。</p>	<p>自分のめあて</p>	<p>ふり返り</p>
<p>友達か、調査結果と自分の考えを分けたほうがいいよ。」と教えてくれた。もう一度自分で読み返してみると、調査結果を書く部分に、自分の感想も書いていたことに気が付いた。</p>	<p>調査結果をもとに、自分の考えを書けるようになった。自分の考えたことが調査結果にもついているかどうか、次の時間に友達に読んでもらって、アドバイスをもらいたい。そして、説得力のある文章になるように書き直したい。</p>	<p>調査報告文を書くときのポイント」を参考にしながら、書き進めようと思った。書き進めようと思った。書き進めようと思った。書き進めようと思った。</p>		

児童2の「ふり返りカード」の第4時の記述から、事実と感想、意見とを区別して書くために、「調査報告文を書くときのポイント」に示されている「調査報告文で使うとよい語句の例」を自ら進んで確認し、調査結果を書こうとしていると捉えた。第5時の記述から、前時までの学習の「ふり返り」を生かして、第5時の「自分のめあて」を修正するとともに、修正しためあての達成に向けて、次時の学習で取り組みたいことを考えていると捉えた。第6時の記述から、前時の「ふり返り」を生かし、自分の文章を読んだ友達からの助言を基に自分の文章を読み直していることと捉えた。これらのことから、学習課題に沿って粘り強く書き表し方を工夫しながら、調査報告文を書こうとしていると捉え、「おおむね満足できる」状況(B)と判断した。

学習課題に沿って書き表し方を振り返り、改善しようとする姿が見られなかった児童は、「努力を要する」状況(C)と判断した。このように判断した児童には、学習課題と「自分のめあて」を確認させ、書き表し方を工夫するために、「調査報告文を書くときのポイント」をどのように活用したのか、友達との交流でどのようなことに気付いたのか、教師が作成した調査報告文と比べてもっとよくなることはないかなどと一緒に考えるなどして、次の学習に生かすことができるように指導する。



### 1 単元の目標

- (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。 [知識及び技能] (1) 才
- (2) 登場人物の性格について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1) 工
- (3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合うとする。 [学びに向かう力、人間性等]

### 2 単元における言語活動

同じ作者による複数の作品を読み、心に残った登場人物を選んで「しょうかいカード」にまとめ、紹介し合う。

(関連：[思考力、判断力、表現力等] C(2) イ)

### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使っている。(1) 才	① 「読むこと」において、登場人物の性格について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。(C(1) 工)	① 進んで、登場人物の性格について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって感じたことや考えたことを文章にまとめようとしている。

### 4 単元の流れ (11時間扱い)

※本事例では、「知識・技能」の評価については省略している。

次	時	主たる学習活動	指導と評価の一体化に向けた考え方
一	1	○ 教師が作成した登場人物の紹介カードを見て、物語を読んで心に残った登場人物と自分が感じたことや考えたことを、登場人物の性格に着目して紹介し合うという学習の見通しをもつ。	<p>◆ <b>学習の見通しをもたせる。</b> 教師が心に残った登場人物を性格に着目して紹介することで、紹介するという言語活動に対する見通しを児童にもたせる。また、単元に設定した言語活動を教師自身が行うことにより、指導や評価を行う際の留意点を明確にする。 児童がいつでも斎藤隆介の作品を読むことができるように、本を借り、教室に常備するなど学習環境を工夫する。</p>
	2	○ 既習の物語を想起し、登場人物の性格を表す言葉を集める。	
二	3 7	○ 「モチモチの木」を読み、心に残った登場人物である豆太がどういう人物か考える。	<p>◆ <b>叙述に基づき、豆太の性格を考えさせる。</b> 豆太のことがよく表れている叙述に着目させ、その叙述から分かる豆太の性格を短い言葉で付箋紙に書き、書いた付箋紙を着目した叙述の近くに貼らせる。</p> <p>【児童が付箋紙を貼った教科書の一部】</p> <p>◆ <b>振り返りの記述から児童の学習状況を捉え、必要に応じて学習改善につながる指導・助言を行う。</b></p> <p>◆ <b>一つの叙述だけでなく、複数の叙述を根拠にすることで、より具体的に豆太の性格を考えさせる。</b> 自分の考えをはっきりとさせるために、着目した叙述とその叙述から分かる性格について友達と交流する。交流したことをメモすることで、自分の考えがどのように変わったのかを記録に残し、紹介カードを書く際に活用できるようにする。</p> <p>「思考・判断・表現」①で評価(「しょうかいカード」)</p> <p>◆ <b>「学習のめあて」に沿って振り返らせる。</b> 学習を振り返る際は、「学習のめあて」に立ち返らせ、その視点に沿った書き方を指導する。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」①で評価(ノートにおける振り返りの記述)</p>
		○ 付箋紙を基に、豆太の性格について話し合う。必要に応じて付箋紙に書き加える。	
	○ 毎時間、学習活動を振り返る。		
	8 9	○ 物語全体を読み、自分が貼った付箋紙を比較したり分類したりすることで、登場人物の性格が分かる叙述は物語全体に広がっていることに気付く。 ○ 複数の叙述を結び付けて豆太の性格について考える。 ○ 豆太の性格について友達と交流する。その際、交流したことをメモし、自分の考えがどのように変わったのかを記録に残す。	
三	10 11	○ 豆太について、「しょうかいカード」を書く。	
		○ 毎時間、学習活動を振り返る。	
		○ 斎藤隆介の他の作品から自分が紹介したい作品を選び、「しょうかいカード」を書く。 ○ 「しょうかいカード」を読み合い、感想を伝え合う。 ○ 単元の学習活動を振り返る。	

### 5 「Bと判断する状況」の例

※本事例では、「知識・技能」の「Bと判断する状況」の例については省略している。

思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分が選んだ登場人物の性格について、複数の叙述を結び付けて具体的に想像し、「しょうかいカード」を書いている姿	進んで、自分が選んだ登場人物の性格について複数の叙述を結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって感じたことや考えたことを「しょうかいカード」にまとめようとしている姿

## 6 評価の実際

### (1) 「思考・判断・表現」の評価 (第9時)

○ 第9時の「しょうかいカード」の内容から、「Bと判断する状況」の例に該当するかどうかを見取って評価する。

① 夜中には、じさまについてもらわないと、一人じゃしゃべんもできないのだ。」(四十三ページ)

↓  
おくびよう


② 「豆太は小犬みたいに体を丸めて、表戸を体でふっとはして走りだした。」(五十一ページ)

↓  
ゆう気がある

③ 「人間、やさしささえあれば、やらなきゃならねえことは、きつとやるもんだ。」(五十五ページ)

↓  
やさしい

○ 豆太はこんなせいいかく



「おおむね満足できる」状況(B)の例  
「児童3の「しょうかいカード」の一部

「豆太について感じたことや考えたこと」

豆太は、昼間は「やい、木い、モチモチの木い！ 実い落とせえ！」と言っ  
ていばっています。夜になるとモチモチの木がこわくなるおくびような男の子です。

しも月二十日のばん、じさまがはらいたになっ  
てしまいました。夜中に一人でせつちんにもいけ  
ない豆太ですが、半道もあるふもとの村まで、医者様をよぶために一人で走って行ったのです。

じさまのためにがんばった豆太のことがとても心にのこりました。

児童3は、「しょうかいカード」における、——部①の叙述から、豆太が臆病であることを、——部②の叙述から豆太が勇気をもっていることを、——部③の叙述から豆太が優しさをもっていることをそれぞれ想像していると捉えた。また、「おくびよう」という性格については、児童3の教科書を確認したところ、物語全体に描かれた行動や会話に関する叙述に着目して付箋紙を貼り、複数の叙述を結び付けて豆太の性格について想像していることを確認した。これらのことから、豆太の性格について、複数の叙述を結び付けて具体的に想像していると捉え、「おおむね満足できる」状況(B)と判断した。

複数の叙述を結び付けて豆太の性格を想像していない児童は、「努力を要する」状況(C)と判断した。このように判断した児童には、線を引いた叙述と自分で貼った付箋紙を確認しながら物語全体をもう一度読ませることで、登場人物の性格が分かる叙述は物語全体に広がっていることや複数の叙述を結び付けると登場人物の性格をより具体的に想像することができることを確認させ、次の学習に生かすことができるように指導する。

### (2) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価 (第9時)

○ 第9時の振り返りの記述や学習に取り組んでいる様子から、それぞれ「Bと判断する状況」の例に該当するかどうかを見取って評価する。

○ 振り返り

① 今日、豆太のせいいかくについて考え、しょうかいカードにまとめました。

② わたしは、豆太のせいいかくをおくびようだけどゆう気があると考えました。でも、友だちは、「豆太にやさしさがあったから、医者様をよびに行くことができたと思う。一人で夜道を走って行くことができたから、モチモチの木に灯がついたところを見られたんじゃないかな。」と言っていました。教科書をも一度読んでみると、さい後の場面で、じさまが「やさしささえあれば」と言っていたので、豆太のせいいかくに「やさしい」とつけ足しました。

○ 振り返り

教科書にはった、豆太のことが分かるふせん紙を整理してみたら、豆太のせいいかくは一つではなく、いろいろあることが分かりました。いくつかの場面をくらべて登場人物のせいいかくを考えてみると自分の考えがはっきりするなと思いました。

③ 自分がえらんだ本でも、物語の中の言葉や文から登場人物のせいいかくを考えて、しょうかいカードに書きたいです。

「十分満足できる」状況(A)の例  
「児童5のノートの一部」

児童5は、ノートにおける——部①から、見通しをもって学習していると捉えた。また、——部②から、豆太の性格について複数の叙述を結び付けて検討していると捉えた。さらに、——部③から友達との交流を通して、豆太の性格が表れている他の叙述に気付き、自分の考えをより深めていると捉えた。これらのことから、「十分満足できる」状況(A)と判断した。

児童4は、ノートにおける——部③から、見通しをもって学習していると捉えた。また、——部①と——部②から、豆太の性格について複数の叙述から検討していると捉えた。これらのことから、「おおむね満足できる」状況(B)と判断した。



### 1 単元の目標

- (1) 割り切れない場合の除法の意味や余りについて理解し、それが用いられる場合について知り、その計算が確実にできる。
- (2) 割り切れない場合の除法の計算の意味や計算の仕方を考えたり、割り切れない場合の除法を日常生活に生かしたりすることができる。
- (3) 割り切れない場合の除法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。

### 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ② 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。 ③ 割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。	① 除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現している。 ② 余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。	① 除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現しようとしている。 ② 除法が用いられる場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。〔わり算探し〕など

### 3 単元の流れ (10 時間扱い)

※本事例では、「知識・技能」の評価については省略している。

時	主たる学習活動	指導と評価の一体化に向けた考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 余りがある場合でも除法を用いてよいことや、余りの意味や答えの見付け方を、図やブロック等を用いて、筋道立てて考える。</li> <li>○ 余りがある場合の除法の式の表し方や、余りなど用語の意味を知る。</li> </ul>	<p>◆ <b>余りに着目して図と式を関連付けて考えるのに適した場面を提示する。(第2時)</b></p> <p>第1時の学習を生かし、余りに着目しながら問題解決ができるように、「あめを□こつかんで、1ふくろに4こずつ入れます。あまる数がもっとも大きいとき、おまげがもらえます。」のような問題場面を提示する。余りの大きさと除数の関係が考えられるように、「もっとも大きいあまりの数について考え、説明する。」のような課題を設定し、課題解決に取り組ませる。</p> <p>◆ <b>被除数の異なる式を比較して考えさせる。(第3時)</b></p> <p>発表・検討の際には、児童が自力解決の過程で考えた式を、余りが1の場合、余りが2の場合というように、余りの大きさに着目して、黒板に分類して示す。その上で、児童に比較させ、余りの大きさと除数の関係を考えさせる。</p>
2・3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 余りがある除法で、余りの大きさと除数の関係を考える。</li> </ul>	<p>【板書の一部(例)】</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 等分除の場面についても余りがある場合の除法が適用できるかを考える。</li> </ul>	
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 余りがある場合の除法の計算について、答えの確かめ方を知る。</li> </ul>	
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 余りのある除法の計算ができる。</li> </ul>	
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日常生活の場面に当てはめるときに、商と余りをどのように解釈すればよいかを考える。</li> <li>○ 商に1を加える場合や加えない場合について、それぞれ考える。</li> </ul>	<p>◆ <b>自分の考えや説明をよりよいものに高めようとする態度を育む。(第7時)</b></p> <p>余りに着目するときに、商に1を加える場合と加えない場合の二つの問題場面に連続して取り組ませる。第一の問題場面では、児童が自らの考えを練り上げたり修正したりしようとする際のモデルとなるように、図や式だけでなく、余りに着目した児童の考え方を言葉で黒板に書き込み、学習集団において共有できるよう指導する。第二の問題場面では、黒板に示された図や式、言葉を参考にして、余りの処理についてよりよく表現することができるように指導する。</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。</li> </ul>	
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習内容の定着を確認する。(評価テスト)</li> </ul>	
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習内容を適用して除法の問題を考えたり、解決し合ったりする。</li> </ul>	

## 4 評価の実際

### (1) 「思考・判断・表現」の評価（第2時・第3時）

○ 余りが除数よりも小さくなることについて、図と式とを関連付けて説明している児童の姿を活動の様子やノートの記述から見取って評価する。

#### 「おおむね満足できる」状況(B)の例 【第2時の児童1のノートの一部(例)】

あめを□こづつんで、1ふくろに4こずつ入れます。  
あまる数をもっとも大きいとき、おまけがもらえます。

あまりの数を  
しらべたい。

4こずつ分けるときのあまりの数が  
もっとも大きいのはいくつか考えよう。

〈自分の考え〉

□が14のとき  
○○○○○○○○○○○○○○○  
14÷4=3あまり2

【児童1が修正したノートの一部】

□が14のとき  
○○○○○○○○○○○○○○○  
14÷4=3あまり2

児童1は、        の記述から、問題場面を図で正しく表すことができていないと捉えた。

そこで、児童1に包含除の意味と、前時に学習した「余りがある場合の除法の表し方」について振り返らせた。その後、児童1は、        のように図を修正した。以上のことから、児童1の本時における評価を「おおむね満足できる」状況(B)と判断した。

友達と互いの考え方を交流する場面では、「あめを4個ずつ分けるということを図で表せているか」と「余りがいくつになるか」を視点に互いのノートを見せ合いながら説明させた。

14÷4の商と余りを計算で求めることはできるが、問題場面を表す図において、商と除数を正しく表すことができていない。

問題場面を図に表すことができていない児童については、「努力を要する」状況(C)と判断した。このように判断した児童には、「余りのない場合のわり算の学習を思い出ししてみよう」などと助言し、既習事項を想起させ、図と式とを結び付けながら説明させるなどして、余りのある場合の除法についても自力解決することができるように指導する。

#### 「おおむね満足できる」状況(B)の例 【第3時の児童1のノートの一部(例)】

問 式が□÷3で表されるとき、あまりの数で  
もっとも大きな数は、いくつですか。

○○○○○○○  
あまり  
8÷3=2あまり2

あまりの数でいちばん大きな数は、  
わる数よりも1小さい数です。

第3時では、児童1は、        の記述から、余りに着目し、図と式とを関連付けて考えていると捉えた。

さらに、        の記述から除数よりも小さくなるという自分の考えを表現できていると捉えた。以上のことから、児童1の本時における評価を「おおむね満足できる」状況(B)と判断した。

除数と余りの関係を具体物や図を用いて説明できていない児童については、「努力を要する」状況(C)と判断した。このように判断した児童には、「○をかいて3個ずつに分ける場面を表し、余りの数を確かめてみましょう。」等の助言をした上で、被除数を変えて余りと除数の関係を比較させるなどして、余りの大きさと除数の関係を見いだすことができるように指導する。

### (2) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価（第7時）

○ 余りの処理をどのようにすればよいかについて、図と式とを関連付けて説明しようとしている姿を活動の様子やノートの記述から見取って評価する。

#### 【児童2のノートの一部(例)】(第7時前半)

問 ケーキが23こあります。  
1箱に4このケーキを入れます。  
全部のケーキを入れるには、  
箱は何箱ひつようですか。

式  $23 \div 4 = 5$  あまり 3      答え 6箱

児童2のノートの記述から、問題場面を捉え、自力解決したことについて、言葉や図などを用いずに、式と答えのみを書いていると捉えた。

【第7時の板書の一部(例)】

〈23このケーキ〉  
○○○○○○○○○○○○○  
あまり  
式  $23 \div 4 = 5$  あまり 3  
 $5 + 1 = 6$       答え 6箱

数名の児童に、自力で解決したことを発表させるなどして、「全部のケーキを入れると書いてあるから、余りの3個も箱に入れなければならない」のように、余りに着目した児童の発言等を板書する。必要に応じて、自分のノートに追記させることで、次の学習に生かすことができるよう指導する。

#### 【児童2のノートの一部(例)】(第7時後半)

問 タイヤを4こ使って、おもちゃの  
車を作ります。  
タイヤが30こあるとき、車は  
何台作れますか。

〈30このタイヤ〉  
○○○○○○○○○○○○○  
式  $30 \div 4 = 7$  あまり 2

2このタイヤでは  
車は作れない。

この場合は1を足さなくてよい。      答え 7台

児童2のノートの記述から、問題場面を捉え、図と式とを関連付けて、余りの処理についてどのように考えたかを説明しようとしている姿が認められる。

児童2のノートから、問題場面を捉え、余りの処理について考えたことを、図と式とを関連付けて説明しようとしていると捉えた。さらに、余りの処理についてどのように考えたかを言葉によって書き加えることで、より分かりやすく説明しようとする姿が見られた。これらのことから、本時における評価を「おおむね満足できる」状況(B)と判断した。

### 1 単元の目標

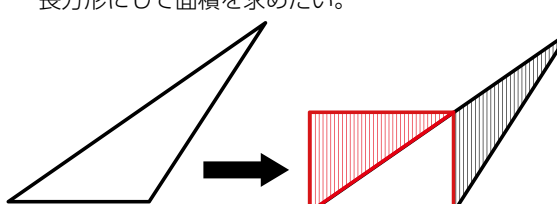
- (1) 三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積の計算による求め方について理解し、それらの面積を公式を用いて求めることができる。
- (2) 図形を構成する要素などに着目して、求積可能な図形に帰着させ、基本図形の面積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ確かな表現に高め、公式として導くことができる。
- (3) 求積可能な図形に帰着させて考えると面積を求めることができるというよさに気づき、三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積を求めようとしていたり、見いだした求積方法や式表現を振り返り、簡潔かつ確かな表現に高めようとしていたりしている。

### 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 必要な部分の長さを用いることで、三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積は計算によって求めることができることを理解している。 ② 三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積を、公式を用いて求めることができる。	① 三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積の求め方を、求積可能な図形の面積の求め方を基に考えている。 ② 見いだした求積方法や式表現を振り返り、簡潔かつ確かな表現を見いだしている。	① 求積可能な図形に帰着させて考えると面積を求めることができるというよさに気づき、三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積を求めようとしている。 ② 見いだした求積方法や式表現を振り返り、簡潔かつ確かな表現に高めようとしている。

### 3 単元の流れ (10 時間扱い)

※本事例では、「知識・技能」の評価については省略している。

時	主たる学習活動	指導と評価の一体化に向けた考え方
1	○ 平行四辺形の面積の求め方を考え、説明する。	<b>◆ 図形の構成要素に着目し、求積可能な図形に帰着させて考えさせる。(第1・4・7時)</b> 第1時の平行四辺形の求積の場面では、既習の図形である長方形に帰着させて考えた求積方法について、平行四辺形のどこに着目し、どのように考えたのかを学習集団において共有する。 第4時の三角形の求積の場面では、児童が既習の求積可能な図形に帰着させて考えることができるよう、ノートを見返すなどして、前時までの学習を思い出すことができるようにする。 第7時の台形の求積の場面では、児童が、単元を通して身に付けた求積方法を振り返りながら、既習の求積方法を繰り返し活用することにより、求積可能な図形に帰着させて考えることよさを実感できるようにする。
2	○ 平行四辺形の面積の公式をつくり出し、それを適用して面積を求める。	
3	○ 高さが平行四辺形の外にある場合でも、平行四辺形の公式を適用できることを理解する。 ○ どんな平行四辺形でも、底辺の長さが高さが等しければ、面積は等しくなることを理解する。	<b>◆ 既習の図形の求積方法と関連付けて求積方法を表現させる。(第2・5・8時)</b> 既習の内容を振り返り、基本図形の面積の求め方を見いだして、元の図形のどこの長さに着目すると面積を求めることができるのかを考え、表現させる。さらに、帰着させた図形と元の図形を行き来しながら見いだした求積方法が、いつでも面積を求めることができるかどうかを確かめることによって、簡潔かつ確かな表現を見いだして言葉の式をつくれるようにする。
4	○ 三角形の面積の求め方を考え、説明する。	<b>◆ 帰着させた図形と台形の構成要素に着目させる。(第7・8時)</b> 第7時では、下の【児童のノートの一部(例)】(第6時)のように、長方形に帰着させて考えようとした児童の着想を基に、「長方形にして面積を求める」という着想でも解決できる問題として、直角を含む台形を扱うなどの指導も考えられる。台形を変形したり分割したりすることで、既習のどのような図形に帰着させれば求積方法が考えられるか、見通しをもたせながら自力解決ができるよう指導する。その上で、帰着させた既習の求積可能な図形と台形の構成要素のどこに着目して考えたかをノートに記述させ、様々な考えや式表現を学習集団において共有させる。
5	○ 三角形の面積を求める公式をつくり出し、それを適用して面積を求める。	
6	○ 高さが三角形の外にある場合でも、三角形の面積の公式を適用できることを理解する。 ○ どんな三角形でも、底辺の長さが高さが等しければ、面積は等しくなることを理解する。	<b>【児童のノートの一部(例)】(第6時)</b> 長方形にして面積を求めたい。 
7	○ 台形の面積の求め方を考え、説明する。	第6時において、【児童のノートの一部(例)】のように長方形に帰着させて考えようとしたことから自力解決につまずいた児童には、高さが図形の外にある場合の平行四辺形の求積の学習を想起させるとともに、長方形以外の既習の図形に形を変えて考えるように指導する。 第8時では、一般的な台形においても第7時で見いだした式表現が適用できるかを確かめさせ、面積を求めさせる。
8	○ 台形の面積の求め方や公式をつくり出し、それを適用して面積を求める。	
9	○ ひし形の面積の求め方を考え、説明する。 ○ ひし形の面積を求める公式をつくり出し、それを適用して面積を求める。	<b>◆ これまでの学習を振り返り、簡潔かつ確かな表現に高められるよう指導する。(第9時)</b> 前時までの学習をノート等で見返し、既習の図形の求積方法や式表現を振り返らせる。等積変形や倍積変形などの多様な求積方法を基に、見いだした既習の図形とひし形の構成要素に着目させることで、簡潔かつ確かな表現に高められるよう指導する。
10	○ 単元の内容についての定着を確認する。	○ 「主体的に学習に取り組む態度」②で評価(ノート)

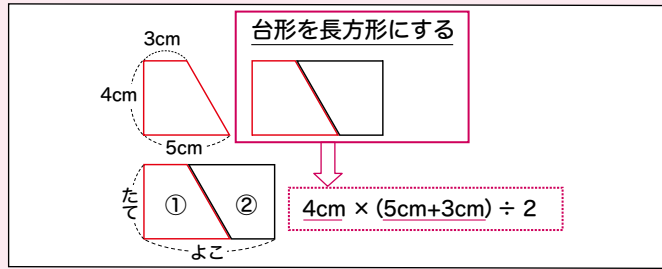


## 4 評価の実際

### (1) 「思考・判断・表現」の評価 (第7時・第8時)

- 既習の図形の面積の求め方を基に、台形の面積の求め方を考えている姿を児童の活動やノートの記述から見取って評価する。

#### 「おおむね満足できる」状況 (B) の例 【第7時の児童3のノートの一部】

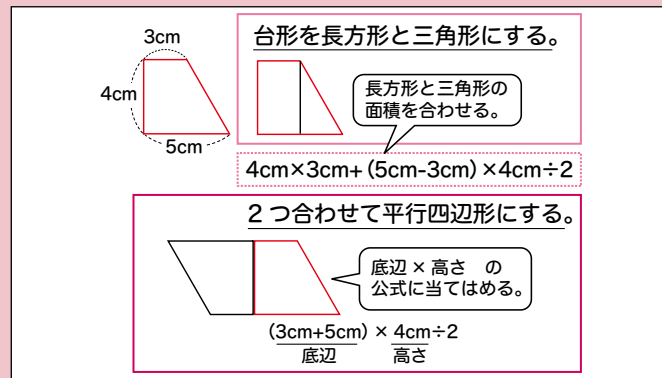


児童3は、      の記述から、倍積変形して求積可能な長方形に帰着させ、面積の求め方を考えていると捉えた。

また、      の記述から、図形の構成要素に着目して、「4cm」を長方形の縦の長さ、「(5cm+3cm)」を長方形の横の長さとして台形の面積を計算で求めていると捉えた。

これらのことから、第7時における児童3の評価を「おおむね満足できる」状況 (B) と判断した。

#### 「十分満足できる」状況 (A) の例 【第7時の児童4のノートの一部】



児童4は、      の記述から、台形を長方形と三角形に分けて、面積を求めていると捉えた。

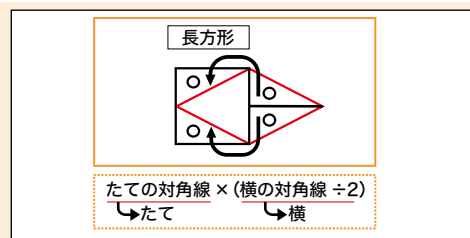
また、      の記述から、図形の構成要素に着目して、計算で面積を求めていると捉えた。さらに、      の記述から、台形を既習の図形である平行四辺形に帰着させて面積の求め方を考えていると捉えた。これらのことから、第7時における児童4の評価を「十分満足できる」状況 (A) と判断した。

求積可能な図形に帰着させて面積を求めることができない児童については、「努力を要する」状況 (C) と判断した。このように判断した児童には、「台形の紙を切ったりつなげたりして、平行四辺形や三角形などの面積を求めることができる図形にしてみましょう。」などと助言し、台形の紙を実際に切ったり、二つの合同な台形をつなげたりして、既習の図形に形を変えられることを確かめさせる。台形を既習の図形に帰着させて考えられることを確かめた上で、ノート等を振り返り、帰着させた図形の構成要素を確かめながら、面積を計算で求めるよう指導する。

### (2) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価 (第9時)

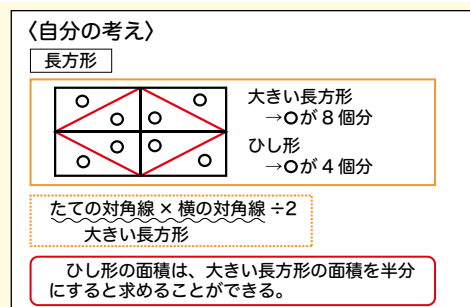
- 図形の構成要素に着目して、既習の求積可能な図形の面積を求める方法を振り返り、ひし形の公式をつくらうとしている姿を見取って評価する。

#### 「おおむね満足できる」状況 (B) の例 【児童5のノートの一部】



児童5は、      の記述から、等積変形の考え方をういて長方形に帰着させて考えようとしていると捉えた。また、      の記述から、図形の構成要素に着目して、長方形の縦の長さを「たての対角線」、横の長さを「横の対角線 ÷ 2」として簡潔かつ確かな表現に高めながら、等積変形の見方を適用し、ひし形の面積を求める公式をつくらうとしていると捉えた。このことから、第9時における児童5の評価を「おおむね満足できる」状況 (B) と判断した。

#### 「十分満足できる」状況 (A) の例 【児童6のノートの一部】



児童6は、      の記述から、倍積変形の考え方をういて長方形に帰着させて考えようとしていると捉えた。

また、      の記述から、図形の構成要素に着目して、長方形の縦の長さを「たての対角線」、長方形の横の長さを「横の対角線」として簡潔かつ確かな表現に高めながら、等積変形の見方を適用し、ひし形の面積を求める公式をつくらうとしていると捉えた。

さらに、      の記述から、自分が見いだした求積方法の説明をするために、言葉で分かりやすく書き加えていると捉えた。

これらのことから、第9時における児童6の評価を「十分満足できる」状況 (A) と判断した。

求積可能な図形に帰着させて考えようとしていない児童については、「努力を要する」状況 (C) と判断した。このように判断した児童には、「平行四辺形や台形の面積はどのように求めましたか。ノートを見返して確かめましょう。」などと助言し、これまでの学習で見いだした複数の求積方法や求積可能な図形に帰着させて考えた式表現を振り返らせる。その上で、変形の方法や着目した構成要素等を見だし、言葉の式をつくるように指導する。

# 新聞の投書を書こう

## ～根拠の適切さを考え、説得力のある文章を書く～

### 第2学年 B書くこと

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

#### 1 単元の目標

- (1) 意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。 [知識及び技能] (2) ア  
 (2) 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加え、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1) ウ  
 (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

#### 2 本単元における言語活動

新聞で報じられた題材について自分の意見をもち、新聞の投書を書く。(関連：[思考力、判断力、表現力等] B(2) ア)

#### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	① 「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加え、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)	① 粘り強く根拠の適切さを考え、学習課題に沿って新聞の投書を書こうとしている。

#### 4 単元の流れ (4 時間扱い)

※本事例では、「知識・技能」の評価については省略している。

時	主たる学習活動	指導と評価の一体化に向けた考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師が作成した「中学校へのスマートフォン等の持ち込み」に関する新聞の投書を読み、それぞれの意見と根拠を整理する。</li> <li>○ それぞれの投書を説得力のある文章に修正する方法をグループごとに考えて発表し、学級全体で共有する。</li> </ul> <p>※ 教師が提示する投書は、次の3種類 右の〈説得力のある文章を書くときのポイント〉の①が不十分、②が不十分、①②共に不十分</p>	<p>◆ <b>本単元で身に付けるべき資質・能力を理解させる。</b> 本時のまとめとして以下のポイントを示す。 〈説得力のある文章を書くときのポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 根拠となる確かな事実や事柄を具体的に記述する。</li> <li>② 意見を導き出している「事実や事柄に対する適当な解釈」を具体的に記述する。</li> </ul> <p>※ 本単元で身に付けるべき資質・能力を具体的に示すことで、「Bと判断する状況」の例を生徒と共有することができるようにする。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「中学校へのスマートフォン等の持ち込み」に関する自分の意見と根拠を、ワークシートに整理する。</li> <li>○ 4人程度のグループで、互いの根拠の適切さについて以下の二つの観点から相互評価を行い、自分が整理した意見と根拠の関係について振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 根拠が確かな事実や事柄に基づいているか。</li> <li>・ 意見が、その事実や事柄に対する適当な解釈から導き出されているか。</li> </ul> </li> </ul>	<p>◆ <b>学習状況を把握させ、学習の調整を促す。</b> 第1時の学習を踏まえ、相互評価では、よい点や改善点を具体的に挙げさせ、客観的に自らの学習状況を把握させる。その上で、次の授業で説得力のある投書を書くために改善したいことを考えさせ、学習の調整を促す。</p> <p>振り返りの記述から生徒の学習状況を捉え、必要に応じて学習の改善につながる指導・助言を第3時に行う。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新聞の投書として説得力のある文章となるよう、実際の投書の文字数(400字程度)で自分の考えを書く。</li> <li>○ 互いの文章を読み合い、〈説得力のある文章を書くときのポイント〉に沿って記述することができているかについて相互評価を行い、必要に応じて修正する。</li> </ul>	<p>◆ <b>身に付けるべき資質・能力を意識させて取り組ませる。</b> 第1時で示した〈説得力のある文章を書くときのポイント〉を意識させ、粘り強く取り組ませる。</p> <p>「思考・判断・表現」①で評価 (修正後の文章)</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時に修正して改善された文章 (〈説得力のある文章を書くときのポイント〉が明確になるような文章) 数点を読み、修正前の文章と比べ、どこが、なぜよくなったのかを考える。</li> <li>○ 自分の文章について自己評価、相互評価を行い、これまでの学習の進め方を振り返る。</li> </ul>	<p>◆ <b>粘り強い取組や学習の調整の仕方を振り返らせる。</b> 〈説得力のある文章を書くときのポイント〉を意識して試行錯誤したことなど、観点を明確にして振り返らせる。客観的に自らの学習状況を把握させるために、相互評価を踏まえて振り返らせる。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」①で評価 (振り返りシート)</p>

#### 5 「Bと判断する状況」の例

※本事例では、「知識・技能」の「Bと判断する状況」の例については省略している。

思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 根拠となる確かな事実や事柄を具体的に記述している姿</li> <li>② 意見を導き出している「事実や事柄に対する適当な解釈」を具体的に記述している姿</li> </ul>	<p>相互評価を踏まえて根拠の適切さを考え、〈説得力のある文章を書くときのポイント〉に沿って新聞の投書を書こうとしている。</p>

## 6 評価の実際

### (1) 「思考・判断・表現」の評価 (第3時)

○ 第3時に生徒が書いた修正後の文章について、「Bと判断する状況」の例①、②に該当するかどうかを見取って評価する。

「Bと判断する状況」の例①を基に、根拠となる**確かな事実**や事柄を具体的に記述しているかどうかを判断し、できている場合は「○」、できていない場合は「△」を記入する。

「Bと判断する状況」の例②を基に、意見を導き出している「**事実や事柄**に対する**適当な解釈**」を具体的に記述しているかどうかを判断し、できている場合は「○」、できていない場合は「△」を記入する。

#### 【評価メモの一部 (例)】

	① 確かな事実	② 適当な解釈	工夫 優れた記述の 異なる立場の 意見を想定	単元の評価
生徒1	○	○		B
生徒2	○	○		A
生徒3	○	△		C

意見や根拠の丁寧な記述、異なる立場の意見を想定した説明など、説得力を高めるための優れた記述の工夫が認められた場合は、そのキーワードを記録する。

①、②とも「○」の場合は「おおむね満足できる」状況(B)とし、その上で優れた記述の工夫が認められた場合は「十分満足できる」状況(A)とする。

「**努力を要する**」状況(C)と判断した場合は、教師が考えた修正案を朱書きして示すなどして、どのように記述すればよいのかを理解できるように指導する。



#### 「おおむね満足できる」状況(B)の例 【生徒1が書いた修正後の文章(例)】

文部科学省が中学校へのスマートフォン等の持ち込みを条件付きで認めた。私は、条件付きであってもスマートフォン等を中学生が学校に持ち込むことには反対だ。なぜなら、持ち込みの条件としてルールを作ることが示されているが、ルールを守らず、トラブルが起る可能性があると考えるからだ。

令和元年度「児童・生徒のインターネット利用状況調査」調査報告書(東京都教育委員会)によると、インターネット利用時のルールを家庭で決めている生徒のうち、ルールを守っているのは五五・七%の生徒であった。つまり、残りの約半数の生徒はルールを決めても守っていないのだ。このことから、ルールを作ったとしても、全員が守るわけではなく、校内での使用や登下校中の歩きスマホなどによってトラブルになる生徒もいると思うので、スマートフォン等の持ち込みに反対なのである。



#### 「十分満足できる」状況(A)の例 【生徒2が書いた修正後の文章(例)】

私は、「学校に持ってきたら先生に預ける」、「登下校時は緊急でなければ使用しない」というルールを作って守るようにすれば、中学生がスマートフォン等を学校に持ち込むことに賛成だ。

中学生になると部活動が始まる。小学生に比べて下校時刻が遅くなり、冬は真っ暗だ。私は、部活動の帰りに不審者を見かけたことがある。連絡手段もなく、逃げるしかなかった。そんな時、スマートフォン等があれば、親や警察に電話ができる。音を出せば、防犯ブザーのようにもなる。中学生の登下校中の危険を防ぐことができると思う。

一方で、スマートフォン等を使う時間が長くなることによる成績低下を心配し、持ち込みに反対する人もいるようだ。しかし、これは学校への持ち込みとは関係がない。なぜなら、最初に述べたようなルールを守っていれば、学校への持ち込みでスマートフォン等を使う時間が長くなることはないからだ。

事実に対する適当な解釈を示し、意見を支える根拠を述べている。

出典、数値を示すことで根拠となる事実を具体的に記述している。

異なる立場の根拠が成立しないことを記述し、自分の意見の説得力を高めている。

事実に対する適当な解釈を示し、意見を支える根拠を述べている。

自分の体験を、根拠となる事実として具体的に記述している。

### (2) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価 (第4時)

○ 第4時の振り返りシートの記述を基に評価する。その際、第2時の振り返りシートの記述も参考にしながら、「Bと判断する状況」の例に該当するかどうかを見取って評価する。



#### 【第2時】

次の授業で説得力のある投書を書くために改善したいこと  
フィルタリングを設定すれば、持ち込んで問題ないと反論されることが分かったので、フィルタリングは効果がないという事実を基に説明できるようにしたい。

相互評価を踏まえて根拠の適切さを考えようとしていることが確認できる。

より説得力のある投書を書こうとしていることが確認できる。

#### 【第4時】

〈説得力のある文章を書くときのポイント〉に沿って書くために、第3時で試行錯誤したことや今後の学習や生活に生かしたいこと

説得力を高めるため、新たな事実を調べて根拠を補強した。今回の学習で、自分とは違う考えから根拠を検討することが大切だと分かったので、次に自分の意見を書くときは、**様々な立場の考え方から、自分の意見と根拠を検討して、説得力のある文章を書きたい。**

第2時の相互評価を踏まえ、根拠を補強する事実を付け加えていることから、〈説得力のある文章を書くときのポイント〉に沿って書くようとしている姿を確認できる。

さらに、本単元の学習から学んだことを今後の学習に生かそうとする「応用・活用」の意識も認められることから、「十分満足できる」状況(A)と判断した。



#### 【第2時】

次の授業で説得力のある投書を書くために改善したいこと  
事実の解釈の部分が分かりにくいと言われたが、自分の根拠を強くするために、他の事実を調べて増やしたい。

意見と根拠を整理したワークシートを確認すると、事実に対する適当な解釈を記述することができていなかった。この点と振り返りシートの記述から、相互評価を踏まえて根拠の適切さを考えようとしていると判断することができない。

#### 第3時の学習

「その事実からどのようなことが考えられるのですか。」や「出典や数値を示すほうが具体的に分かりやすくなりませんか。」などと助言する。

#### 【第4時】

〈説得力のある文章を書くときのポイント〉に沿って書くために、第3時で試行錯誤したことや今後の学習や生活に生かしたいこと

事実と意見の結び付きを考え、解釈を書き直した。根拠となる調査結果は、数値や出典を示して具体的に書こうとした。

粘り強く解釈を書き直し、根拠を明確に示すことで、〈説得力のある文章を書くときのポイント〉に沿って書くようとしている姿を確認できるので、「おおむね満足できる」状況(B)と判断した。



## 1 単元の目標

- (1) 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。 [知識及び技能] (3) ア  
 (2) 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1) エ  
 (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

## 2 本単元における言語活動

『おくのほそ道』を読み、作者のものの見方や考え方について考えたことを伝え合う。(関連: [思考力、判断力、表現力等] C(2) イ)

## 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3) ア	① 「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1) エ)	① 積極的に歴史的背景などに注意して古典を読み、今までの学習を生かして自分の考えを伝えようとしている。

## 4 単元の流れ (5時間扱い)

※本事例では、「思考・判断・表現」の評価については省略している。

時	主たる学習活動	指導と評価の一体化に向けた考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>映像資料や資料集等により『おくのほそ道』の概要を理解する。</li> <li>冒頭の文章を読んで印象に残った叙述を選び、その叙述と歴史的背景などを関連付けて理解した内容をワークシートに具体的に記述する。</li> </ul>	<p>◆ <b>本単元で身に付けるべき資質・能力を理解させる。</b>                      教師が、印象に残った叙述(①)を選び、その叙述と歴史的背景など(②)とを関連付けて理解した内容を具体的に説明する(③)モデルを示す。その後、生徒に取り組みせ、数名に発表させて学級全体で共有させる。                      ※ 本単元で身に付けるべき資質・能力を具体的に示すことで、「Bと判断する状況」の例を生徒と共有することができるようにする。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「平泉」の文章を、資料集等を活用しながら歴史的背景などに注意して読み、内容を理解する。</li> <li>各グループで、「平泉」の文章で印象に残った叙述を選び、その叙述と歴史的背景などを関連付けて理解した内容について話し合い、自分が理解した内容をワークシートに具体的に記述する。</li> <li>第1時と第2時の学習を振り返る。</li> </ul>	<p>◆ <b>学習状況を把握させ、学習の調整を促す。</b>                      第1時と第2時の学習を踏まえ、身に付いたことやできるようになったことを振り返らせ、自らの学習状況を把握させ、第3時の学習に向けて、学習の調整を促す。</p> <p>振り返りの記述から生徒の学習状況を捉え、必要に応じて学習の改善につながる指導・助言を第3時に行う。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>「白河の関」、「壺<small>つぼ</small>の碑<small>いしづみ</small>」など、教師が用意した『おくのほそ道』の文章数編を、資料集等を活用しながら歴史的背景などに注意して現代語訳で読む。</li> <li>特に印象に残った叙述がある文章を1編選び、その叙述と歴史的背景などを関連付けて理解した内容について、同じ文章を選んだ者同士で話し合い、自分が理解した内容をワークシートに具体的に記述する。</li> <li>本時の学習を振り返る。</li> </ul>	<p>◆ <b>身に付けるべき資質・能力を意識させて取り組ませる。</b>                      第2時までの学習の進め方が適切ではないと判断した生徒には、個別に指導する。</p> <p>「知識・技能」①で評価(ワークシート)</p> <p>◆ <b>粘り強い取組や学習の調整の仕方を振り返らせる。</b>                      身に付いたことやできるようになったことを振り返らせ、自分の学習の進め方を自覚させる。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」①で評価(振り返りシート・観察)</p>
4 ・ 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習を振り返り、人間、社会、自然などの視点から作者のものの見方や考え方について考えた内容を、矢印等を用いてフリップにまとめる。</li> <li>4人程度のグループで、自分の考えを、フリップを用いて発表する。</li> <li>第4時と第5時の学習を振り返る。</li> </ul>	<p>◆ <b>粘り強い取組や学習の調整の仕方を振り返らせる。</b>                      課題解決のために試行錯誤したことを振り返らせ、自分がどのように粘り強く取り組み、学習を調整しようとしたかを自覚させる。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」①で評価(振り返りシート・観察)</p>

## 5 「Bと判断する状況」の例

※本事例では、「思考・判断・表現」の「Bと判断する状況」の例については省略している。

知識・技能	主体的に学習に取り組む態度
『おくのほそ道』の叙述(①)と、その背景となる当時の生活・文化の様子や作者が置かれていた状況など(②)とを、関連付けて理解した内容を具体的に説明している(③)姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容を理解するために必要となる歴史的背景などを調べたり考えたりしながら『おくのほそ道』を読もうとしている姿</li> <li>歴史的背景などに注意して理解した内容を生かし、作者のものの見方や考え方について考えたことを伝えようとしている姿</li> </ul>

## 6 評価の実際

### (1) 「知識・技能」の評価（第3時）

○ 第3時に記述したワークシートの①～③の内容から「Bと判断する状況」の例に該当するかどうかを見取って評価する。

#### 「おおむね満足できる」状況(B)の例 【生徒6のワークシートの一部(例)】

① 選んだ文章(壺の碑)  
② 印象に残った叙述(現代語訳)  
③ 今、この碑の前に立つと、碑に感動して和歌を詠んだ古人の心がよく分かる。…旅の苦勞を忘れて、涙も流れるほどだった。  
④ 注意した歴史的背景など  
⑤ 芭蕉は、歌枕を訪ねて古人の詩心に触れたいと思っていた。  
⑥ 当時の旅は、ほとんど徒歩で移動していた。  
⑦ 『おくのほそ道』の旅は約五カ月間だった。  
⑧ ①と②から理解した内容  
⑨ 芭蕉は、歌枕として有名な壺の碑を前にして、そこで歌を詠んだ古人の思いを感じることができた。その先、また苦勞が続くはずの旅にも希望をもつことができたのだと、この叙述から理解した。

「旅の苦勞を忘れて、涙も流れるほどだった」という本文の叙述(①)と作者の旅の動機や当時の旅の苦勞(②)とを関連付けて、作者が感じていることを理解し、具体的に説明している(③)ことから、「おおむね満足できる」状況(B)と判断した。

古歌を踏まえた叙述(①)と古人が白河の関について詠んだ和歌があるという歴史的背景など(②)とを関連付けて、作者が現実の初夏の情景だけではなく、古人の和歌に詠まれた秋の情景も想像していることを理解して具体的に説明している(③)ことが確認できる。

さらに、昔と今を重ね合わせるという作者のものの見方や考え方にまで理解を深めることができていたことから、「十分満足できる」状況(A)と判断した。

#### 「十分満足できる」状況(A)の例 【生徒7のワークシートの一部(例)】

① 選んだ文章(白河の関)  
② 能因法師が詠んだ秋風の音を聞き、源頼政が詠んだ紅葉を思い浮かべながら、目の前の青葉を見ると、いちだんと趣深いものがある。  
③ 注意した歴史的背景など  
④ 能因法師が詠んだ和歌「都をばかすみとも立ちしかど秋風を吹く白河の関」  
⑤ 源頼政が詠んだ和歌「都にはまだ青葉に見しかども紅葉散りしく白河の関」  
⑥ ①と②から理解した内容  
⑦ 芭蕉は、現実の初夏の情景だけでなく、秋風が吹く音や、一面に散っている紅葉という古人が和歌に詠んだ秋の情景も想像して、趣深いと感じているのだと分かった。この叙述から、芭蕉は、昔と今を重ね合わせてものを見たり考えたりするのだと理解することができた。

第1時、第2時にも同様のワークシートを用いて学習させる。その際、①～③に適切に記述することができていない生徒に対しては、次の時間で他の生徒と交流する際等に、どのような歴史的背景などに注意して内容を理解すればよいかを助言する。

### (2) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価（第3時・第5時）

○ 主に知識及び技能の獲得に向けた学習を振り返る第3時、主に思考力、判断力、表現力等を身に付ける学習を振り返る第5時の振り返りシートの記述や学習に取り組んでいる様子から、「Bと判断する状況」の例に該当するかどうかを見取って評価する。

#### 【生徒8の振り返りシートの記述等(例)】

##### 「Bと判断する状況」の例（第3時）

内容を理解するために必要となる歴史的背景などを調べたり考えたりしながら『おくのほそ道』を読もうとしている姿

##### 【第3時】

今回の学習で身に付いたことやできるようになったこと  
白河の関の場所や芭蕉が訪れた時期を資料集で調べたり、芭蕉が思い浮かべた古人の和歌の意味を考えたりして、その時の情景を想像しながら、芭蕉の思いを理解することができた。

作者が見ていた情景や作者が思い浮かべた和歌の意味を調べたり考えたりしながら読もうとしている姿が確認できる。  
また、授業中の観察からも同様の取組を行っていることがうかがえたことから、「おおむね満足できる」状況(B)と判断して「評価メモ」に「○」を記入した。なお、「努力を要する」状況(C)と判断した場合は、「評価メモ」に「△」と記入する。

※ 第2時の振り返りシートの記述等は、単元における評価として総括するためではなく、以下の(例)のように学習の進め方を適切に指導するために評価する。

##### (例)【第2時】

前回と今回の学習で身に付いたことやできるようになったこと  
芭蕉が感じたことや思ったことを現代語訳から読み取り、重要だと思うポイントを考えることができた。

第2時のワークシートを確認すると、「注意した歴史的背景など」の記述が十分ではなかった。この点と振り返りシートの記述から、内容を理解するために必要となる歴史的背景などを調べたり考えたりしながら『おくのほそ道』を読もうとしていると判断することができない。

第3時に個人で考える学習活動の際に、資料集等を用いて歴史的背景などに注意するよう助言する。

##### 「Bと判断する状況」の例（第5時）

歴史的背景などに注意して理解した内容を生かし、作者のものの見方や考え方について考えたことを伝えようとしている姿

##### 【第5時】

作者のものの見方や考え方について自分が考えたことを伝えるために試行錯誤したこと  
芭蕉の俳句や他の人が理解した内容のメモを読み返し、それらの中で、どれが芭蕉のものの見方や考え方を表しているのか、それぞれに共通していることは何かを考えた。また、一つの文章だけでなく、『おくのほそ道』全体を通して芭蕉が大切にしたいものを捉えることを意識し、資料集を読み直した。

作者のものの見方や考え方をまとめるという学習の目的を意識しながら、これまで学習してきた俳句等を読み返しており、今までの学習を生かして自分の考えを伝えようとしている姿が確認できる。また、授業中の観察からも同様の取組を行っていることを確認することができた。

さらに、『おくのほそ道』全体を意識して資料集を読み直すという「興味の広がり」が認められるので、「十分満足できる」状況(A)と判断して「評価メモ」に「◎」を記入した。

##### 【評価メモの一部(例)】

	第3時	第5時	単元における評価
生徒6	○	○	B
生徒7	◎	○	A
生徒8	○	◎	A
生徒9	○	△	C

第3時と第5時の評価を基に、単元における評価を総括した。

なお、「評価メモの一部(例)」のように、どちらの評価も「○」の場合はB、その上で「◎」がある場合はA、どちらかに「△」がある場合はCとした。

### 1 単元の目標

- 一次関数についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
- 関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。
- 一次関数について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。

### 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 一次関数について理解している。 ② 事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知っている。 ③ 二元一次方程式を関数を表す式とみることができる。 ④ 変化の割合やグラフの傾きの意味を理解している。 ⑤ 一次関数の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。	① 一次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 ② 一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	① 一次関数について考えようとしている。 ② 一次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③ 一次関数を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。

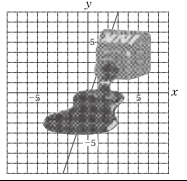
### 3 単元の流れ (17 時間扱い)

(1) 内容のまとめりについて

※本事例では、「思考・判断・表現」の評価については省略している。

小単元等	授業時間数
1 事象と一次関数	2 時間
2 一次関数の特徴	9 時間
3 一次関数の利用	5 時間
単元のまとめ	1 時間
	17 時間

(2) 各授業時間の主たる学習活動及び指導と評価の一体化に向けた考え方について

小単元	時	主たる学習活動	指導と評価の一体化に向けた考え方
1	1	○ 具体的な事象から、一次関数の定義を理解する。	
2	6	○ 一次関数のグラフをかく方法を、傾き、切片、座標等に着目して見いだす。 ○ 直線の式が一つに決まるための条件や直線の式を求める方法を考察し表現することを通して、一次関数のグラフから直線の式を求めることができるようにする。	◆ 各時間や小単元末、単元末に学習状況を把握させ、学習の調整を図らせる。 「今日の授業で分かったこと・大切な考え方など」及び「まだはっきりしないこと・知りたいこと」などを、ノートなどを開いて見直ししながら記述させるようにする。 「主体的に学習に取り組む態度」①②③で評価（「学びの足跡」シート） ◆ つまずきが明らかになるような小テストを実施し、指導に生かす評価を行う。 与えられた条件から直線の式を求めることを通して、様々な条件から直線の式を求めることができるように指導した上で、その定着状況を見取るために、生徒がどこに立ち戻ればよいか分かるような小テストを作成し、実施する。 また、第6時では、一次関数の式とグラフの関係についての授業を行い、理解させておく。
		○ 学習を振り返って、「学びの足跡」シートに分かったことやまだはっきりしないことなどを記述することを通して、その後の学習を見通すことができるようにする。	
2	7	○ y軸と直線の交点を読み取れないグラフについて、直線の式を求める方法を考える。 インクでかくれているグラフの式を求めましょう。 	○ 小テスト(右ページ参照)に取り組む。● 「知識・技能」④⑤で評価(小テスト) ○ 学習を振り返る。● 「主体的に学習に取り組む態度」①②③で評価(「学びの足跡」シート)
		○ 富士山の6合目の気温を予測することを通して、現実的な事象から二つの数量を取り出し、理想化・単純化することにより、その関係を一次関数とみなして問題を解決することができるようにする。	
3	16	○ 学習を振り返る。● 「主体的に学習に取り組む態度」①②③で評価(「学びの足跡」シート)	
		○ 単元全体の学習内容についてのテストに取り組む。	

※ 「学びの足跡」シートは、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【中学校 数学】の第3編の事例1で紹介されているものと同様のシートを使用している。



## 4 評価の実際

### (1) 「知識・技能」の評価（第7時）

- 生徒の学習状況を把握することができる小テストを作成し、その結果から、生徒の知識及び技能の習得状況について評価する。

#### 第7時における小テストを用いた評価の例

次の小テストの結果を基に、生徒の解答状況に応じて学習のつまずきを把握し、事後指導に生かす。

#### 【第7時における小テストの例】

グラフから式を求めよう

2年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

次の①～④の直線のグラフについて、直線の式を求めましょう。また、求められないものは、その理由を書きましょう。

#### 【生徒1の小テストの結果に対する評価】



#### 小テストの結果

結果1 ①は正答、②・③は誤答

結果2 ④は無解答

#### 学習のつまずきの原因の検討

結果1より、切片と傾きが読み取りやすいものは解決できるが、傾きが整数でないものは解決できないものと考えられる。

結果2より、グラフを式で表すとき、明確な視点をもって問題を解決することができていないものと考えられる。

小テストを返却する際に、「第6時のノートや教科書を見直してみよう。」と助言する。また、二元一次方程式のグラフをかく学習（第8時）や、小単元のまとめの学習（第11時）において、改めて式の意味や、グラフの傾きと切片の意味等を確認し、理解を深めさせた上で、グラフを式に表すことができるよう指導する。

〈各問題に正答している場合に想定される学習状況〉

問題①	切片と傾きが読み取りやすいものは解決できる。
問題②	傾きが整数でなくても解決できる。
問題③	1点の座標と傾き又は2点の座標が分かれば解決できる。

〈問題④について〉

【第7時における小テストの例】では、一部のように、「(式が) 求められないもの(グラフ)は、その理由を書きましょう。」と出題している。特に、問題④については、生徒が解決することが困難な条件とし、式に表すことができない理由について生徒が文章で記述する場面を設定している。この記述から、知識の概念的な理解について見取ることが考えられる。また、この小テストから、「主体的に学習に取り組む態度」や「思考・判断・表現」の観点について見取することも考えられる。

このように、小テストでは、生徒が文章による説明をしたり、式やグラフで表したりする場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れ、評価を行うことが考えられる。

#### 本単元全体を通じた「知識・技能」の評価の例

単元内で行う複数の小テストの結果と、第17時の単元全体の学習内容についてのテストの結果で、単元における「知識・技能」の評価の総括を行うことが考えられる。その際は、「数値で表して合計や平均値などを用いる方法」や、「一番多い評価を用いる方法」、「単元の後半の評価を重視する方法」などが考えられる。

### (2) 主体的に学習に取り組む態度の評価

- 「学びの足跡」シートの記述から、単元の評価規準の①～③に対して具体的な意思があるかを見取って評価する。

#### 【生徒2の「学びの足跡」シートの記述(例)】

学びの足跡 ～単元「一次関数」～

2年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

時	分かったこと・大切な考え方など	まだはっきりしないこと・知りたいこと
6	1次関数のグラフをかくときは、 $y=ax+b$ の $a$ と $b$ に注目するとよいことが分かった。グラフでは、 $a$ のことを傾き、 $b$ のことを切片という。傾きは変化の割合と同じ値になることが分かった。	グラフには色々なものがあるが、どのグラフも式に表すことができるのか知りたい。もし、式にできないグラフがあるとしたら、どのようなグラフが式にすることができて、どのようなグラフは式にすることができないのだろうか。
○次回の授業の目標を予想しよう 式に表すことができるグラフの条件は、どのようなものだろうか。		
7	1次関数のグラフの式は、 $y=ax+b$ の傾きである $a$ と、切片である $b$ が分かれば求めることができる。 $a$ は2点の座標が分かれば求めることができる。 $b$ は、グラフが $y$ 軸と交わる部分分かれば求めることができる。	2点の座標が明確な時に式を求めることはできたが、 $x$ 座標と $y$ 座標がともに整数である点をグラフを通らないうち、式を求める方法があるか知りたい。また、グラフが交わっている点について、求める方法がないか知りたい。
○次回の授業の目標を予想しよう グラフの交点の座標は、どのように求められるだろうか。		
16	変化の割合が一定ではない場合でも、誤差があると考えることができる。理想化・単純化とみなすことができることが分かった。理想化・単純化することによって、グラフに表すことができるようになる。	理想化・単純化した場合、グラフをかくと多少の誤差が出てしまう。その時の誤差は、どれを信じてと一番答えに近い値になるのかが分らなかった。

□には、一次関数の意味や特徴についての学習状況を自己評価した上で、その後、さらに考えていきたいことが具体的に示されている。

□には、問題解決するためのよりよい方法を、さらに知りたいということが具体的に示されている。

これらのことから、単元の評価規準の「主体的に学習に取り組む態度」①～③について全て具体的な意思が読み取れるため、「十分満足できる」状況(A)と判断できる。

各時間の学習の過程を振り返り、問題解決における表、式、グラフのよさや一次関数の特徴のよさなどを実感しているか、一次関数に関連してこれから何について学びたいと思っているか、日常生活や社会において一次関数について学んだことを生かそうとしているかなどについて評価し、各生徒への指導に生かしたり、次時以降の指導展開に生かしたりしていくとともに、必要に応じて総括するための資料として記録に残すことが考えられる。

### 1 単元の目標

- (1) 平面図形と数学的な推論についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
- (2) 数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し表現することができる。
- (3) 平面図形と数学的な推論について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとする態度を養う。

### 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 平行線や角の性質を理解している。 ② 多角形の角についての性質が見いだせることを知っている。	① 基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質を基にしてそれらを確認説明することができる。	① 平面図形の性質のよさを実感して粘り強く考え、平面図形の性質について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。

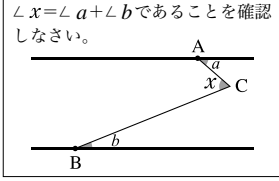
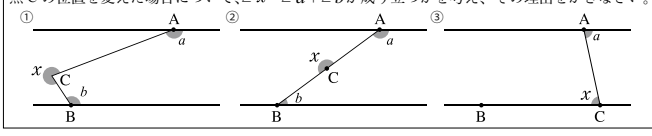
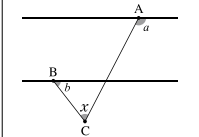
### 3 単元の流れ (9時間扱い)

(1) 内容のまとめりについて

※本事例では、「知識・技能」の評価については省略している。

小単元等		授業時間数	
1	説明のしくみ	3時間	9時間
2	平行線と角	5時間	
	単元のまとめ	1時間	

(2) 各授業時間の主たる学習活動及び指導と評価の一体化に向けた考え方について

小単元	時	主たる学習活動	指導と評価の一体化に向けた考え方
1	1	○ 多角形の角の和の求め方を説明する。	
2	7	<p>○ 「平行線と折れ線の角の大きさの求め方」(問題1)について自分の考えをワークシートに記述する。</p> <p><b>問題1</b></p>  <p><math>\angle x = \angle a + \angle b</math>であることを確認しなさい。</p>	<p>◆ <b>平行線と折れ線の角の大きさの求め方の基本的な考え方について指導する。</b></p> <p>問題1について考えさせることで、平行線と折れ線の角の大きさの求め方を説明する方法について一度授業で取り扱い、生徒に理解させておく。</p>
	7	<p>○ 点Cの位置について、授業の流れを踏まえワークシートに複数の場合をかく。 (予想される生徒の記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>点Cが問題1の逆側にある場合</li> <li>点A、点B、点Cが一直線上にある場合</li> <li>点Cが平行線上にある場合</li> </ul>  <p><b>問題2</b></p> <p>点Cの位置を変えた場合について、<math>\angle x = \angle a + \angle b</math>が成り立つかを考え、その理由をかきなさい。</p>	<p>◆ <b>問題を解決する過程で粘り強く取り組みせ、学習の調整を図らせる。</b></p> <p>点Cの位置について、様々な場合を試行錯誤することができる問題に取り組ませる。</p>
	8	<p>○ 平行線と折れ線の角の大きさについて、三つの場面を取り上げ、いつでも<math>\angle x = \angle a + \angle b</math>という関係が成り立つかどうか調べる(問題2)。</p> <p><b>問題3</b></p> <p>点Cが2本の平行線より外側にある場合(問題3)について自分の考えを記述する。</p> 	<p>◆ <b>点Cの位置が特別な場合について、説明する方法を考えさせる。</b></p> <p>第7時に生徒が考えた点Cの位置の中で、特別な場合を取り上げ、<math>\angle x = \angle a + \angle b</math>という関係が成り立つかどうかについて説明させる。</p>
	9	単元全体の学習内容についてのテストに取り組む。	<p>◆ <b>平行線と角について、場면을拡張させ、統一的・発展的に考察し表現させる。</b></p> <p>問題1、問題2を踏まえ、<math>\angle x = \angle a + \angle b</math>であることを確認する方法を扱った後、点Cの位置を平行線の外側に移動させた場合について考えさせる。</p>

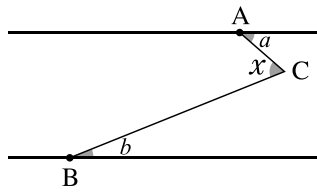
## 4 評価の実際

### (1) 「思考・判断・表現」の評価 (第8時)

○ 数量や図形などの性質を見だし、統一的・発展的に考察する力を身に付けているかどうかを見取って評価する。

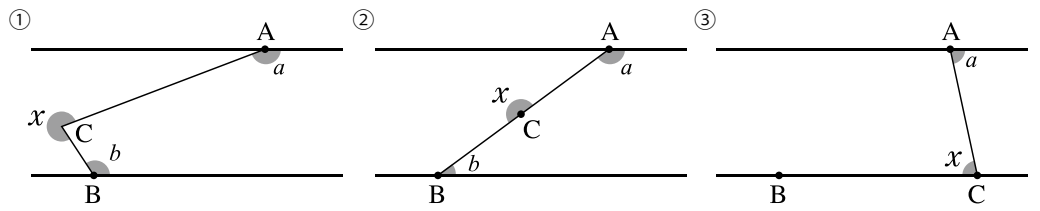
#### 問題1 (第7時に実施)

$\angle x = \angle a + \angle b$ であることを確認しなさい。



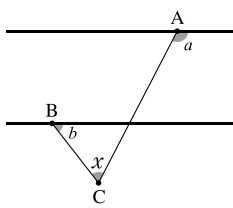
#### 問題2 (第8時の前半に実施)

点Cの位置を変えた場合について、 $\angle x = \angle a + \angle b$ が成り立つかを考え、その理由をかきなさい。



#### 問題3 (第8時の後半に実施)

点Cが平行線の外側にある場合について、 $\angle x = \angle a + \angle b$ が成り立つかを考え、その理由をかきなさい。



#### 【生徒3のワークシートの記述(例)】

問題1と同じように、点Cを通り、2本の平行線と平行な直線をひくと、平行線の錯角が等しいことから、 $\angle x = \angle a - \angle b$ が成り立つことが分かる。  
さらに、 $\angle b$ を $-\angle b$ とみることによって、問題1や問題2と同じように、 $\angle x = \angle a + \angle b$ とみることができる。

生徒3のワークシートの記述から、基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質を基にしてそれらを確認説明することができていると判断した。また、——部から、問題1と問題2とを関連付けて、統一的・発展的に考察していると捉えることができる。

これらのことから、「**十分満足できる**」状況(A)と判断した。このように、問題1、問題2を取り組ませた上で、問題1と問題2とを関連付けて、統一的・発展的に考察しているかどうかを記述から捉え、生徒の思考の様相を読み取れるようにすることが大切である。

「**努力を要する**」状況(C)と判断した生徒に対しては、この問題を解く上で生徒に経験させた第7時の問題1を振り返らせ、基本的な記述の方法を見直させるとともに、第7時の問題2を振り返らせて統一的に理解していることを確認する。その後、問題1、問題2の説明を参照しながら、もう一度問題3に取り組ませることが考えられる。

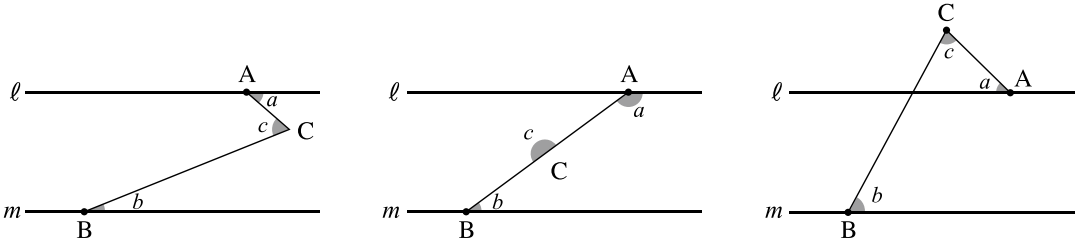
### (2) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価 (第7時)

○ ワークシートの記述から、問題を解決する中で表出する主体的に学習に取り組む態度を見取って評価する。



#### 【生徒4のワークシートの記述(例)】

点Cの位置を変えても、この関係は成り立つだろうか。



※ 生徒には、点Cが最初に提示された位置以外にある場合の図をできるだけ多くかかせる。  
また、 $\angle a, \angle b$ がどこに当たるのか、印を付けさせる。

ワークシートの記述と学習に取り組んでいる様子から、評価規準を基に、以下の2点を見取って評価する。

- ① 点Cの位置について考察し、様々な場合について考えようとしている。
- ②  $\angle x = \angle a + \angle b$ が成り立つ場合について考察しながら、点Cの位置を決めようとしている。

この①、②から、次のように評価することが考えられる。

評価	評価の視点
「 <b>おおむね満足できる</b> 」状況(B)	・ ①を満たしている。
「 <b>十分満足できる</b> 」状況(A)	・ ①を満たすと同時に、②についても満たしている。

今回のワークシートの記述から、点Cの位置を多様な場合について記述することができていることから①に該当すると判断した。また、角を示す印も $\angle x = \angle a + \angle b$ を意識して付けていることが見取れることから、②に該当すると判断した。よって「**十分満足できる**」状況(A)と評価した。

「**努力を要する**」状況(C)と判断した生徒に対しては、例えば、ノートやワークシートに何もかけないような状況がある場合には、机間指導の際に、黒板やノートを示しながら、今回の問題に関連する内容を振り返るよう促すことが考えられる。



# 「新しい指導と評価の在り方」検討委員会 委員名簿

## 小学校 国語部会

山崎 尚史	青梅市立若草小学校 統括校長
小木 和美	大田区立田園調布小学校 主任教諭
飯田 学	葛飾区立本田小学校 主任教諭
松井 優子	青梅市立第二小学校 指導教諭
拝原 奈穂実	福生市立福生第五小学校 主幹教諭

## 小学校 算数部会

長谷 豊	目黒区立八雲小学校 校長
大村 英視	目黒区立碑小学校 指導教諭
河内 麻衣子	豊島区立高南小学校 指導教諭
小泉 友	立川市立幸小学校 指導教諭
尾形 祐樹	日野市立日野第五小学校 指導教諭

## 中学校 国語部会

宮城 洋之	三鷹市立第三中学校 校長
栃木 昌晃	世田谷区立三宿中学校 主幹教諭
森田 直実	板橋区立赤塚第二中学校 主幹教諭
熊井 直子	小平市立小平第五中学校 主幹教諭
成井 晴子	国立市立国立第一中学校 主幹教諭

## 中学校 数学部会

小島 宏一郎	大田区立糀谷中学校 校長
松尾 賢宏	葛飾区立新小岩中学校 主幹教諭
内山 治之	小平市立上水中学校 主任教諭
皆川 弘樹	日野市立日野第三中学校 主幹教諭

なお、本委員会においては、次の方々に御指導をいただいた。

富山 哲也	十文字学園女子大学 教授
西村 圭一	東京学芸大学 教授
柳瀬 泰	玉川大学 教授

## 事務局

中嶋 富美代	指導部義務教育指導課長
西川 さやか	指導部主任指導主事
鈴木 太郎	指導部義務教育指導課統括指導主事
小野田 聖	指導部義務教育指導課指導主事
宮西 真	指導部義務教育指導課指導主事
石川 剛仁	指導部義務教育指導課課長代理

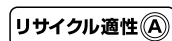
《編集・発行》

東京都教育庁指導部義務教育指導課

〒163-8001 新宿区西新宿二丁目8番1号

電話 03-5320-6841

東京都教育委員会印刷物登録 令和2年度 第107号



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

